

2008年ヨーロッパ選手権レポート

(元原稿は2008.05.24～06.02にブログに掲載した記事)

～ Wien ～

成田からウィーンへ。乗り継ぎの都合でウィーンに一泊。飛行機の中は団体さんがいて超混雑してましたが、非常口前の快適シートでラッキーと思いきや、隣のドイツ語をしゃべるオジサン2人組がずっとワインを飲みながら大声で喋りまくり、さらに席の前はトイレに並ぶおばちゃんたちで騒がしく、睡眠はあんまり取れませんでした。

ウィーンの空港から市街までは秋にチェックしたバスを使ってスイスイ。あんまり海外にいる気がしない。市内は来月からのサッカーユーロ2008歓迎ムード一色かと思いきやあんまりそうではなく、ちょっとがっかり。次ウィーンに戻ってくるときは決勝直後。せっかくなのだからもうちょっと工夫して雰囲気味わえる旅程にすればよかったなあ。



宿に荷物を置いてジョグしながら市内を散策。ヴェルベデーレ宮殿や偉い人が住んでいそうな建物など、どこ行っても立派な建物ばかりでなんだかめまいがするくらい。。。観光案内とか一切なしだったのでどれがどれか良くわかりませんでした。が、首相府とか書いてある感じのとことか、東京で言う銀座みたいなところか普通にジョグしてた気がする。でもあんまり違和感がないのがヨーロッパ。実際、中心街にもジョガーがけっこういたし。思った以上に観光が出来て満足。

宿のベッドに横になってからは熟睡。気づいたら朝。おいしいチーズとジャムとミューズリーの朝食をとって、ようやくヨーロッパだ、と実感。そしていよいよラトビアへ。

～ Riga から Ventspils ～

ウィーンからリガまで2時間ちょっとのフライト。時差が1時間戻るので14時に離陸して着陸したら17時。でもまだ午後の昼下がりのような感じ。別のチームを待っていたオーガナイザーに日本チームと合流するまでどうする？と聞かれ、リガの街でも見に行くよと答えたら、街まで送ってやるよと言ってくれた。親切～。さらにラトビアで一番新しく大きなショッピングセンターで一緒に食事。なんかイオンとかにいるみたいだ。同じ旧ソ連でも某国とはずいぶん様相が異なる。物価も日本と同じくらい。でも安いものは安い。



リガの市内はこじんまりとしていたがきれいであった。ストックホルムをさらに小さくした感じ。街の中でのど自慢のようなイベントがやっていた。さすが歌の国。その中にプレジデントと呼ばれる男性がいて、どうやら大統領らしく、ごついSPもいたけどそんなにたいした警護ではなく、ほのぼのとした国なんだなぁ、と。

他のメンバーと合流したのは24時、リガの西200kmのところにあるVentspils(ベンツピル)には夜中の3時に到着。すでに空は白んでいた。



翌朝起きて、さっそくチームエントリーをし、モデルイベントへ。海岸だけど、そんなに砂っぽくなく、ふかふかした北欧のような地面。見通しの良い森、ときどきヤブ。印象はよい森。微地形が続

き、そこはちょっと油断するとどこにいるのかわからなくなる。でも対応できないわけではなくて、本当に集中したレースが求められる。まあ明日は街中でのスプリントだけだ。

気候はなにもしてないとちょっと肌寒し。空は青く、とても乾燥した、まさに北欧の夏！よい天気が続きますように。

~EOC スプリント~

先ほどヨーロッパ選手権スプリント予選が終わり、宿舎に戻ってきました。夕方の決勝まで待機です。残念ながらB決勝なので17時半ころのスタートです。多分最下位。トップからボーダーまでは約30秒と、ヨーロッパ選手権相変わらず厳しいです。



予想していたとはいえやはり悔しくないわけではないです。レースは序盤で地図に慣れずに5~15秒のミスが続けてしまいました。特に1番はなんと袋小路にはまってしまいました。古い町並みとか本当にトリッキーなエリアなら注意して地図を読むので逆にミスが少なくなるでしょうが、なんとなく簡単そうなエリアだったせいか注意が散漫でした。まあそれでもボーダーまでははるか遠く。ひとまず長期遠征因縁の初戦を無事乗り切れただけよしとします。夕方の決勝は市街地あり、公園あり、砂浜ありの面白そうなコース。オリエンテーリングを楽しめます。

明日のロングからはいよいよ林の中のオリエンテーリング。まずは最下位脱出を目指して一歩一歩手ごたえを掴んでいきたいです。

地図とか結果詳細は[公式サイト](http://www.eoc2008.lv/)(英語: <http://www.eoc2008.lv/>)から。

～スプリントの失敗～

本日、ロング予選が終わりました。ひとまず最下位脱出は果たせましたが、レベルの高さを見せつけられました。ロングについては明日の決勝が終わってからレポートしようと思います。

昨晚のスプリント決勝も結果的にはいまいちでした。どこまで追い込めたのか、ちょっと疑問です。私は全力ですか？

というのも予選同様序盤で15秒程度のミスをしてしまい、精神的にガツンとくるダメージを負ってしまったからです。そしてそのミスはまったく同じ内容のものだったので今後のためにちょっと書いておこうと思います。

ひとまずマップを。左が予選、右が決勝。



どちらも袋小路にはまってしまうミスです。走っているときは通り抜けられると思って走って、現地に行ったら壁があった、というものです。2つのミスの共通事項としては、

ファースト・レグである

レグ・ラインやコントロール・サークルがかかっている

近くに通り返け可能な建物がある

大丈夫だよな、と地図を何度か確認したにもかかわらず気づかなかった

原因としては完全な読み間違いですが、 という地図に慣れる前という特殊といえば特殊な状況に、 と の影響があり読み間違えたものと考えています。予選で失敗したので「怪しいルートを取るときにはよく確認しなきゃ」と対策を立てていたにもかかわらずその網を抜けさせてしまい、いったい何をしてたんだ！という感じです。

こういうスプリントコースを走る際に気をつけなきゃいけない教訓として

序盤にはシンプルで絶対に迎えるルートをチョイスする

建物の下を通り返けようとするときは本当に通れるか確認する

ということを挙げておきます。この夏、ヨーロッパで市街地スプリントを走る人は同じ過ちを犯さぬように祈ります。

さて、こうやってレース前後にパソコンの前でいろいろ書いたりできるのも、宿舎とイベントセンターが隣接し、さらにテレインまでもバスで30分ちょっとという素敵な環境にあるからです。レースから帰ってきて、シャワーを浴びて、手洗い洗濯をし、レースを振り返ってもまだまだ余裕いっぱい時間があります。日本チームは4人だけ。チームオフィシャルもないので、みんなでミーティングに出たり、エントリーをしたり、世界選手権とは違った雰囲気もまたよいものです。

ラトビアはちょっと涼すぎるときがありますが、通り雨もなく快晴が続き、昼は本当に澄んだ青空が広がっています。旧共産圏とは思わせない開放的な町並みに、親切な人々、ラトビアは私が訪れた国の中でもかなり好感触の国です(というか嫌なイメージの国はほとんどないですけど)。

~スペクタクル・ロング~

EOCロングはBファイナルと言えども我がオリエンテーリング人生の歴史に残る一大スペクタクル・レースであった。ロングというよりはまさにクラシック。オリエンテーリングのすべてを凝縮したかのようなコース。



まずスタートから驚き。スタート(=会場)を出てすぐいきなり川を渡るのだが、そこには手造りの浮き橋。こんなの作っちゃうんだ、と驚いていたがそんなのは序の口。1番はオープンとヤブと微地形のコンビネーション。地質こそ違おうがカルストトレイン的なレグであったが、無難にこなし「フン」という感じ。

2番で500m近いBヤブ切り。いやらしいコースだぜと思ってヤブの前に進み出ると、目の前に広がるのは砂地に低木のヤブ。まるでサバンナのように。見通しは効くのであそこだっと目標を定めて走る。その後普通の森をちよろっと走り、続いて出てくるのは巨大な砂地、というよりもはや砂漠！まったくスピードが出せず体力が削られる。1kmちかく砂漠を横断し再び森へ。

森の中をオリエンテーリングすると、続いて出てくるのは大きな湿地、というよりはむしろ湿原！じゃぶじゃぶと腰まで浸かった中を数百m水中ランニング。しかもそれがバタフライ・ループで何度も繰り返され、しつこいくらい湿原を泳がされる。

気づいたら70分近く経ち、集中力が途切れてくるのがわかる。やはり今の限界は75分前後。大切なレースなら60分くらい経過した段階で糖分補給すれば持つ。しかし今日は根性試しだ、と補給なし。

湿原ゾーンが終わった後は森。しかもいわゆる見通しの悪いヤブの中のナビゲーション。ここまで消耗させておいてからヤブですか。ぼろぼろとアタックでミスをする。でももはやそんなミスは気にならない。とにかくコントロールを見つけることが楽しくってしかたなくなってくる。順位とかタイムと

かも考えず、完走したい、次のコントロールを見つけたい、オリエンテーリングを楽しんでいる。こんな感覚、久しく忘れていた。

浮き橋を渡り再び会場へ。スペクテーターズ・コントロールを通過した後は意外とあっさり。表彰式が終わったばかりの会場へゴール。そしてすぐに出発するバスに乗り込み湿地くさいまま宿舍へ。なんだか本当に楽しいレースであった。タイムとかみたら「こんなんじゃ日本代表か！」って怒られちゃうだろうけど、でも「楽しくてごめんなさい」って感じ。このコースを走れただけでEOCに参加してよかったと思える。

ところで前日行われたロング予選。今思えばずいぶんあっさりしたコースであったが、しかしいきなり2km以上のロングレグがあったり、ロングなのに微地形にばんばん置いてあったりと歯ごたえのあるコースだった。とにかく大きなミスをしたくないことを目標に淡々とこなし、会心のレースではないけれど国内なら6位以内は確実に思えるまあまあ出来であったと思う。トップが55分前後なのに対し72分ちょっとなので約130%。2分のミスが1箇所と1分のミスが1箇所。それからもうちょっとリスクを背負ったルートを選択すれば67分くらいは出せるかな、と。ロングが得意な選手がしっかり合わせて会心のレースをすれば65分は切れるかもしれない。そのくらい出せばWOCならなんとか予選通過が見えてくるかも、という感じ。今回の様子だと個人的にはスプリントよりもロングのほうが予選通過に可能性を感じる。ただロングの場合、予選と決勝ではまったく違う要素があるのでその対策が必要となるだろう。

今日はレストで金曜日はミドル予選。今回の大会で一番重要視しているレースなのでこれまでの反省を生かして臨みたい。

～EOC終幕、港町タリンへ～

ミドルはなんというダメなレースだったろう。良いところがほとんどなかった。

これだけボロボロだとさすがに自信をなくす。しかし今回は結果ではない。あくまで世界選手権へ向けたトレーニング。一度した失敗はしない。あと1ヶ月半、レベルの高い争いの中で自分のレースを徹底する。全てを出し尽くす。120%ではなくて100%でよい。世界選手権は結果を意識してし

まうという意味でも難度の高いレースであるが、それを乗り越えるための準備として最高の環境を用意しているのだ。



よかったこと。直進には自信を持ってよい。ただし起点がしっかり把握できていることが前提(当たり前か)。ミドルB決勝の後半でライバル国と集団を形成した。ドイツ、オーストリア、スペイン、とあと1ヶ国(不明)。NT合宿のファシユタトレーニングのレベル。何かタイミングが合えば先行できる。終盤で出し抜きそのまま集団のトップでゴールできた。森林区間でのスピードに劣るとは思えない。ただし彼らはリレーがあるので流している可能性はある。



リレーを残したままEOCが終わり、1週間を過ごしたベントピルスを離れる。オーガナイザーの用意したバスで空港まで行くチームメイトとも別れ、路線バスでリガへ。リガから長距離バスでエストニアのタリンへ。思えばラトビアは過ごしやすい国であった。物価も結局のところ日本よりだいぶ安く、日に日に暖かく快適な気温になってきた。

エストニアへの旅の途中、自転車レースのため道路が大渋滞していた。トップ集団はツールドフランスばりのスピードであったが、後半はMTBで普通の服装をした普通の人々が走っていて、スポーツの裾野が広いことを改めて示された。そういえば昨日のミドル決勝の会場にはラトビア大統領が再び来ていた。

うたた寝をしているうちに国境を越え、エストニアへ。驚くべきはずっと平地が続いていること。しかも森の様子も同じような砂防林地形。北に行くほどヤブが生い茂ってくるのが不思議だ。

最近見ていないもの。山、雨雲、闇夜。。。

そして港町タリンへ到着。タリンはリガよりも近代的な建物が多く、より活気のある街というイメージだ。一泊して旧市街地をちょろっと観光し、夕方フィンランドへ渡る。